

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700381), 法人名 (NPO法人絆の郷しもさほろ), 事業所名 (さくらさくら認知症対応型グループホーム), 所在地 (北海道上川郡清水町字下佐幌基線98番地), 自己評価作成日 (令和元年12月18日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットの少人数であるメリットを生かし、より家庭的な雰囲気を持つグループホームを目指しています。入居者様は全員女性で職員も女性が多いため一人一人と信頼関係を気づき、笑いの絶えないホームです。自然豊かな立地条件の下、外出・園芸などに力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700381-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は清水町中心部から4キロ程度離れた農業地帯にあり、広大な十勝平野の一面に立地している。敷地は明治43年に開校し平成17年に95年の歴史を閉じた旧下佐幌小学校を借り受け、校舎や体育館、事務室等は法人本部と小規模多機能事業所が活用しており、当事業所は校舎横に平屋建物を新築し、1ユニット9人の高齢者の生活を支援している。周辺は酪農や畑作を中心とした第一次産業が主流であり、遠くに大雪山系や日高山脈が望まれ、利用者の見慣れた風景に囲まれた自然の中に残された事業所である。母体であるNPO法人は、隣接する小規模多機能の他に、訪問介護、居宅介護支援、デイサービス、介護タクシー等を地域で展開しており、同町の高齢者支援を担っている。当事業所の優れている点は、利用者が自然な環境下で自由にのびのびと生活している点が挙げられる。事業所は小学校脇に建てられ、すぐ前の草花が咲くグラウンドを自由に散策したり、雨の日は体育館で気ままに歩行し、また小規模の利用者と合同でレクを楽しんだり、1ユニットという、一人ひとりの特性を活かした個人別の介護に取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内に掲示し、共有を図っている。	「利用者様の呼吸に合わせ、ゆっくり・のんびり・まず歩くことを大切に、目配り・気配りのある環境作りに励む」と事業所の基本理念を掲げ、利用者や家族、職員に示しながら、実践に臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜をいただいたり、家族の方や友人の方達も来ていただき交流がある。	十勝管内で最初に開設した小規模多機能事業所と連携し、地域との交流を模索している。近隣の農家や家族から野菜類の差し入れも多く、ボランティアも受け入れながら、自然な交流を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの公共施設に散歩などで交流を図る。買い物・外出等で地域との関わりを持つようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1ヶ月に1回、隣接する同NPOの小規模事業所と合同で運営推進会議を開催し意見交換している。	運営推進会議は、2ヶ月毎に小規模多機能事業所と共に開催している。議事内容は災害対策や各行事報告、ボランティアの受け入れ、利用者の状況が論議され、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回包括主催のケース会議に出席し協力関係を築いている。運営推進委員として会議に出席していただいている。	町より旧校舎を借り受けており、状況の説明等も町とは頻繁に行い、また運営推進会議や包括のケース会議で顔を合わせており、綿密な情報交換も行い、信頼性の高い関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止行為をほぼ理解しており、玄関の施錠をせず、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に開催し、介護内容の点検と事例検討等を行っている。職員には直近の会議や申し送り時に周知し、拘束や抑制のない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による暴力も含め虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者様が1名いる。今後も必要に応じて支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接面談での説明あるいは文面での説明により理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。運営推進会議で利用者や家族の代表から意見や要望を聞く機会がある。	利用者の生活の様子を「さくらさくらたより」に記して、毎月写真同封で家族宅に送っている。また家族交流会の時や来所時には個別面談も行い、要望や苦情を聞き取り、サービス向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員の意見や提案を聞く機会があり、少しでも反映できるように努めている。	入居者受け入れや、ケアの方法、家族対応等々なんでも職員と話し合える様努め、意見や提案を聞き取り、サービスの質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境は整備途上にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得等、個々の意欲にもとづき支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加にとどまっている。ケアカフェ参加を呼びかけ、交流を図るも参加状況は良くない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の家族からの聞き取りや本人との対話の中で信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会時を活用し要望を聞いたり、此方の状況を伝えている。必要に応じ電話や書面での関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時・入居時ともに時間を取り、聴き取りに努め、必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく者との認識を持ち、利用者様の持てる力を活用させていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者様の仲介に努めている。連絡や情報交換をより密にし、誕生日プレゼントやクリスマスプレゼントを家族にお願いしている。又家族交流会等への招待で絆を深めようと努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を多く作ることで関係の継続をはかっている。	利用者と職員、また地域も何かしらの繋がりがある土地柄であり、自然と馴染みの関係が築かれている。土地の匂いや見慣れた風景等の関係性を大切に考え、事業所の都合で断ち切れない様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やともに楽しむ場を作っている。利用者同士がトラブルになりそうな時は、職員が仲立となり、解決に向け努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も電話などで家族から情報をもたらしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の話や言葉に耳を傾けながら本人の意向に添うように検討している	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に添えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時アセスメントの段階で、できる限りの把握に努め、入居後も折々の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人のケアに関して、毎月の会議等で話し合いを行っている。介護計画も作成中。	職員が日々の生活を支援していく中から、必要な事項や不足しているサービス等を考慮し、医療的側面、家族の要望を聞き取りながら原案を作り、計画作成者がカンファレンスしながら、現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で情報収集をし、個々の状況に合わせて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行われていないが柔軟な支援やサービスの多機能化は視野に入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に乏しく支援に結びつきにくい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受け入れる支援はなされている。見取りを視野に入れた医療連携は少しずつ進んでいる。	かかりつけ医は本人の希望を優先しており、職員が同行して通院する場合もある。看護師が在籍しており、適切な医療判断で、安心の出来る医療支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活を踏まえ、問題点は看護職員へ報告、相談し適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係病院との情報交換、相談は主に管理者、看護師を通じみつに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様の介護度が比較的軽度であるが、重度化や終末期に向けての方針を話し合っている。	重度化した場合、看取り介護は全体的に準備不足であり、また医療的な問題もあり、家族や医師と話し合い、本人にとって最良の選択、適切な判断となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回ではあるが、救急救命講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難訓練を実施し、地域に非常時の協力を依頼している。	地域住民や地区消防団の全面的な協力を得ながら、隣接する小規模多機能事業所と共に避難訓練を実施している。災害時には事業所の建物を含め地域の避難所になっており、冬季の暖房装置も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけ対応している。特に言葉使いには気を付けている。	基本は接遇の問題であるが、実地で学ぶことが多くあるため、具体例を挙げながら日々注意し、職員もお互いにチェックしあいながら、尊厳とぬくもりのある対応に臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしたいか」ということをまず確かめ自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様優先はGHの理念なので、そのように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はアドバイスにとどめ、基本的には本人の好みでおしゃれしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付けを一緒に行っている(準備、後片付けは出来る人のみ)。苦手の食べ物の把握、対応など個別に行っている。	いつも利用者の好き嫌いを把握し、その場で献立を立てており、食事が楽しくなるよう努め、また職員も同じ席で同じ料理を味わい、楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は一日を通じ把握記録し、バランスの良い摂取を支援している。また個々の状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣づけている。毎回職員がつき一人一人の指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせたパット・リハパン、夜間のポータブルトイレの使用、時間による声掛け指導など、自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレでを基本として、一人ひとりの排泄サインを共有、見逃さないように注意し、時間誘導もおりまぜながら、無理のない自然の排泄になるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ、乳酸飲料を取り入れている。運動への声掛けを行い、個々に少しずつではあるがやっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴で入浴日は決まっているが、希望があれば、その他の日でも柔軟に対応している。	毎日お湯を張り、利用者一人ひとりが週に2回以上入浴できる様に努めているが、当人の都合で時間を変更したりと、無理のない範囲で臨機応変に対処し、ゆっくりと楽しめるお風呂になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々での生活リズムや習慣を把握し状態に応じた休息、安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について、看護師の助言や資料に目を通し的確な服薬と症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援に努めているが、一人一人に行きわたっているとは言い難い状況である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、レク等希望に添って出来る限りの支援は行っている。家族との共同支援は少しずつ出来ている。	季節のドライブの他、気楽な散歩を周辺で行い、買い物や行事参加、パークゴルフ等々を楽しんでいる。また旧校舎周辺は散策に適した小路や木陰が散在し、外気浴はいつでも楽しめる状況で、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金は事務所預かりとし、本人が使いたいように使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓の空間にソファ・テーブル・テレビ・本・新聞を設置、広い廊下にはソファを設置、ベランダに長椅子を設置、季節の花、観葉植物を取り入れ、居心地の良い空間づくりに努めている。	建物は平屋建てで、中央に大きな食堂兼居間があり、日差しも豊かな開放的な空間となっている。大きな窓からは広大な十勝平野が望め、季節の移ろいも目の前で展開され、ゆっくりと過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間を数カ所設け、希望の場所でくつろげるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいただき、居心地の良い居室作りの工夫をしている。	昔から自宅で慣れ親しんだ家財を持ち込んだ居室も多くあり、壁には家族の写真があったり、人形や小物類も置かれたりと、ゆっくりと居心地よく過ごせる工夫がみられる自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな手作りカレンダーや、見やすい文字壁時計、平行棒手すり、エアロバイクなど安全と自立に向けて支援している。		